

4月のてがたんにつき、2021年5月も少人数・申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回6月のてがたんは6月12日(土)で、テーマは「戦国武将の家紋を探そう!」です。ぜひご参加ください。6月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は6月6日(日)です。

5月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社前→藤棚→旧市民農園→旧水生植物園
- 観察日時と天気：2021年5月8日(土) 10:00~11:15 晴れ
- 参加人数：10名(大人8名、小学生以下2名)
- 市民スタッフ：5名(伴野茂樹、北村章子、木村 稔、小泉伸夫、弘實さと子)
- 鳥博友の会 1名(倉重力也)
- 鳥博職員：2名(小田谷嘉弥、望月みずき)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ(声)/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ*、コサギ*/クイナ科：バン*、オオバン(声)/チドリ科：コチドリ/シギ科：タシギ*/ミサゴ科：ミサゴ*/タカ科：トビ/キツツキ科：コゲラ/ハヤブサ科：チョウゲンボウ*/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒバリ科：ヒバリ*/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/エナガ科：エナガ(声)/メジロ科：メジロ(声)/ヨシキリ科：オオヨシキリ(声)/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ*/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ(声)*

家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生爬虫類】

ニホンアマガエル、ヒガシニホントカゲ*、クサガメ(死体)*、ミシシippアカミミガメ

【昆虫】

チョウ目：モンシロチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、キアゲハ、ナガサキアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、マイマイガ類(幼虫)/トンボ目：シオカラトンボ/コウチュウ目：コガタリリハムシ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、アメンボ類/アリ目：オオスズメバチ、クマバチ、セイヨウミツバチ、セグロアシナガバチ、コハナバチ類/バッタ目：クビキリギス*、キンヒバリ(声)/ハエ目：ユスリカ類、ガガンボ類

【花】

草の花 キク科：コウゾリナ、セイヨウタンポポ、ハルジオン、ノゲシ、オニノゲシ、ブタナ、オオジシバリ、ノボロギク、キツネアザミ、オニタビラコ、ウラボシコグサ、ハハコグサ、オオキンケイギク/セリ科：オヤブジラミ/カタバミ科：カタバミ、オウチカタバミ/フウロソウ科：アメリカフウロ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ、マツヨイグサ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/ナデシコ科：コハコベ、オランダミミナグサ、ノミノツツリ、ツメクサ/アブラナ科：ナズナ、マメグンバイナズナ、セイヨウカラシナ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/イネ科：チガヤ、ヒメコバンソウ、イヌムギ/ムラサキ科：キュウリグサ/オオバコ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヘラオオバコ、ツボミオオバコ/ハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ、トキワハゼ/ドクダミ科：ドクダミ/マメ科：コメツツメクサ、シロツメクサ、アカツメクサ、カラスノエンドウ/バラ科：ヘビイチゴ、オヘビイチゴ/アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ

木の花 マメ科：ニセアカシア、フジ/バラ科：ノイバラ/ミズキ科：ミズキ/ヤナギ科：ヤナギ類/ツツジ科：ツツジ類

5月の観察アルバム



今回のテーマは「ツバメの子育て」でした。市民農園に作られた巣を観察し、孵化したばかりのヒナや餌運びに出入りする親鳥、新たに巣作りの場所を探しに来た別のつがいの行動などを観察することができました。



今月の案内人
伴野茂樹・小田谷嘉弥



①特定外来生物のオオキンケイギク



②さび菌に寄生されたセイヨウカラシナ



③トイレに作られたツバメの巣



④ツバメの親鳥が運び出したヒナの糞



歩いたルートと観察した生き物



⑤ヨシ原に1羽残っていたコガモの雌



⑥ヤナギ類の実がはじけたようす



⑦風に乗って飛ばされたヤナギ類の綿毛



⑧畔で“ほろ打ち”をしていたキジの雄

今月の鳥 ツバメ (スズメ目ツバメ科)

ツバメは体に対して長い翼と尾を持ち、長距離を渡る小鳥で、日本では主に春から夏にかけて見られる鳥です。手賀沼周辺では3月下旬ごろから姿を見せ、人家の軒先などに泥と枯草を使って巣を作ります。巣材となる泥は、田植えに備えて水の入った水田で集めることが多いようです。ツバメの主な餌はユスリカやガの仲間などの飛ぶ昆虫で、水田や沼の上空が主な餌場となります。ヒナが巣立つ6月ごろから沼沿いのヨシ原にねぐらをとるようになり、手賀沼でも7月から8月にかけて数千羽の集結が見られます。この時期に渡りに備えて羽毛を生え換えたり、渡るための栄養の蓄積を行ったりしたあと、9月ごろから南へ旅立っていきます。ツバメの生活は、沼やその周辺の水田の生態系に支えられているのです。



巣材となる泥と枯草を加えたツバメ。巣は雌雄が協力して1週間ほどで作られる